

# しのぼり歴史倶楽部

篠原地区歴史同好会／浜風会会報 No. 1

## 浜風会会報の発行について

浜風会ではこの程、会報を発刊することになりました。そこで先ずそこに至った経過と、その目指すことを説明しておきます。

### 一．浜風会の生い立ちと会報発刊

浜風会は平成元年、わがまち文化誌『浜風と街道』の発刊に尽力した人達が集まって、故郷の歴史を掘り起こし、子供達にわかりやすく伝えようと、スタートしました。以来下表のような活動をとおし、ここまで次のような成果を発信して参りました。



・『篠原村誌』の復刻

・『ふるさと資料室』の設置と運営

・『ふるさと資料室展示品目録』

・『私の戦争体験』

・『ふるさとウォーキングマップ』作成

・『篠原村誌続編』の発刊

・その他、毎年行われる公民館祭への出展等

今後更に会員の研究成果をわかりやすく表し、会員相互の研鑽と地域の皆様にも参考になればと、このような冊子を発刊することになりました。

### 二．会報発刊の目指すもの（編集方針）

1. 会員への情報伝達・連絡
2. 会員相互の研修を深め資質の向上
3. 郷土歴史や文化の掘起しと伝承
4. 郷土を育み地域の発展に寄与
5. 親しみ易く平易で解りやすい

### 三．記事の内容

1. 年間計画
2. 活動の経過報告
3. 郷土の歴史に関するもの
4. 研究・調査内容の概要
5. 研修旅行、見学等の記録
6. その他（声、意見等）

### 四．その他

1. 発刊頻度は年二回（七月、一月）
  2. 印刷部数 百〜二百部
  3. 無料配布 経費は会費より支出
  4. 第一回の発刊について
    - 会報発行について
    - 年間計画
    - 会員研究「美人塚について」
    - 篠原の知識「鈴木姓」について
- 今後の様式を決める試行の意味  
● 発行予定日 八月一日

### 浜風会活動計画から（詳細は平成14年度浜風会活動計画をご参照下さい）

- 例会：毎月第1、3木曜日の19時30分～21時30分／篠原公民館、小会議室
- 本年度のテーマ：
  1. 浜松市合併(昭和36年)までの地区変遷の踏査発掘
  2. 会員又はグループ毎の研究発表
  3. 浜風会会報の発行
- 山下孝先生ご案内のバス旅行（遠鉄バンビツアー）
 

日時：12月7日（土）～8日（日）

目的地：石清水八幡宮／松花堂／大阪万博跡国立民族博物館
- 山下孝先生の特別講座
 

日時：12月12日（木）19時～21時／場所：篠原公民館

テーマ：『ビルマの豎琴』



## 篠原「鈴木」の元祖を探る

自治会名簿（平成13年度より）

自治会名	世帯数	鈴木姓 世帯	鈴木姓 比率
篠原東	1,225	365	29.8%
篠原西	1,023	532	52.0%
篠原団地	132	17	12.9%
坪井	606	50	8.3%
馬郡	682	69	10.1%
駅前	331	29	8.8%
計	3,999	1,062	26.6%

右の表のように、篠原には鈴木姓が極めて多い。その理由を探ってみた。

### 其の一 元祖由来秘書

篠原東の鈴木六郎右衛門（琢磨様）と保泉寺には、鈴木姓の「元祖由来秘書」が伝えられている。その内容を紹介する。

今から8百年程前の鎌倉時代。紀州名草郡藤白村に鈴木三郎重家と義弟の亀井六郎猶真がいた。主君源義経が、兄頼朝に追われ奥州平泉（岩手県）に逃れたが戦いになった。これを知った重家兄弟は、紀州から平泉に馳せ

参じたが、そのまま消息を絶った。紀州に残された重家の妻は、夫の身を案じて一人息子の宮太郎と下僕を連れて奥州へと旅立った。文治五年（一一八九）宮太郎が七才の時であった。

旅を重ねて遠江国橋本（新居町橋本）へ着いた時、鎌倉から京都へ向かう飛脚に会い、主君義経は戦いに敗れ行方知れず、家中の者は全員切腹と知らされた。途方に暮れた妻は半狂乱のようになったが、幼い宮太郎の将来を思い、心を奮い起して髪を剃り、宮太郎の武運長久の願をかけ、疋田の観音堂に十七日間籠もった。満願の日、観音様のお引合せか、里の百姓後藤左権太と出会った。

彼は母子の身の上に同情し、二人を我が家に迎え入れた。

時は流れ、橋本に住んで二十年。宮太郎二十六才の春、佐権太の孫娘を妻に迎え、新宅を永里郷（弁天島北）に建て、名も鈴木喜内左衛門重信と改めた。この人が篠原鈴木姓の元祖なのである。

その子孫は増え永里郷は栄えた。やがて重信の後裔鈴木喜六郎重尚は、応永十九年（一四二二）篠原の地に移り住み、土地を開墾した。それから八十年程後の明応・永正の二度

の大地震、大津波により永里郷は水没。助かった人々も篠原の地に逃れ住んだ。こうして篠原の鈴木姓は広まっていったという。

### 其の二『静岡県の苗字』渡辺三義著他より

鈴木姓の発祥は紀伊国熊野といい、物部氏族である穂積氏の後裔と伝えられている。

伝説によると、その昔、孝昭天皇の時、紀伊の山奥千尾峠で漢司符將軍の嫡男真俊が、榎の本に権現を勧請して榎本姓を賜った。弟の次男基成は、猪子と餠餅を捧げて丸子姓を賜り、三男基行は御秣として稲穂を捧げて穂積姓を賜った。熊野地方では稲穂を積んだ穂積をスズキと呼ぶので、鈴木に変わったという。



「鈴木家譜」には、初代基行より二十余世を経て鈴木判官貞勝があり、その末裔の重包は熊野八庄司の魁となり、その後裔重邦は源為義に従い、その子を重倫、その子が鈴木三郎重家、弟を亀井六郎重清という。兄弟は源義経の郎党となって活躍した。しかしその発祥には他説がないでもない。

熊野発祥の鈴木姓が、全国に繁延したのは、熊野神が各地に勧請され、熊野信仰布教のため、鈴木姓の御師らが随従して、各地に移住したからという。なお、熊野神宮も代々鈴木氏の一族が務めてきているという。

もう一つの要因は、熊野水軍にあるという。水軍は鈴木姓が多く、海を利用して行動した。これを裏付けるように、太平洋岸に多く分布している。本県でも伊豆や沼津他沿岸各地に先祖は熊野から来たという鈴木姓が多い。

以上のことから考察して、前述の鈴木姓の発祥は熊野という説と、篠原に伝わる「元祖由来秘書」とは似通っている。筆者が篠小時代（昭和八年入学）では、お互い同士、先生も「寅男」「昭一」と名を呼び合った。卒業生名簿を見ると男子二組で一〇八名中、鈴木が四十一名もいた。篠原鈴木の祖先は熊野から来たと言っことになろうか。

## 美人塚(小藤)と石源和尚(静丸)

郷土誌「浜風と街道」の伝説ページに「美人塚」について記述されている。篠原の代表的な伝説である。先ずそれを引用する。

### 美人塚

篠原町から志都呂への道筋に興福寺というお寺があります。木立に囲まれた一隅に塚があり、近所の人々から美人塚と呼ばれてい

ます。元和元年（一六一五）の春、長里橋の茶屋で大垣藩土秋岡伴春が、茶を飲みながら街道

の風景を眺めていました。ちょうどその時、

村の娘が通りかかり、行き交わした老僧に挨拶しました。その姿のゆかしさ、笑顔の美しさに心ひかれ、この娘こそ我妻にと、先程の老僧を訪ねました。艱山和尚は彼の熱心さに感じ入り、そのことを父親に話したところ「娘に依存なくば」ということで、娘小藤に話し承諾したので、大垣に移り秋岡家の人となりました。小藤は夫や両親によく仕え、ほどなく一子静丸を生みました。

五年後伴春が病気で帰らぬ人となってしまいました。その後一年程過ぎた頃、夫の両親より「弟の嫁になってくれぬか」と勧められましたが、「私の夫は伴春のみです」と厳として断り、静丸を連れて篠原

村の実家に帰りました。亡父の菩薩を弔わせるため、静丸を出家させ石源と名乗り、磐田の千寿寺の和尚となりました。「これで私の成すべきことは終わった」と彼女は、寛永五年の春、自ら墓穴を掘り「皆様さらば」と虚空蔵菩薩を念じ、自らの手で生き埋めとなり生涯を閉じました。土地の人々は「夫思い」「親を思い」「子を思つ」心を後世まで残そうと、

塚を建てて供養しております。

これはその後の会員による研究成果である。その文中の一節に「静丸を出家させ石源と名乗り磐田の千寿寺の和尚となりました」とある。磐田には千手寺というお寺があるので、尋ねてみた。平成十年一月半ばのことである。

資料として「美人塚」の全文を写してお渡しし、調査をお願いした。古い由緒あるお寺らしく歴代住職の位牌も多く、日頃は奥まった場所に整理しされているらしく、直ぐにはいかなかったが、二月になって石源和尚の位牌が確認されたこと次の書面をいただいた。



『前略、過日ご依頼されました件につきまして、数少ない資料より調べてみた。当山五代（妙心寺派としては第二代となります）位牌には「妙心準東堂当山中興石源和尚大禅師」とあります。何らかの形でお寺の復興に尽力された人物だと思えます。返事が遅くなりました上、何分古い資料が何もありませんので、説明も十分でありますことご免謝下さい。』千手寺（原文のまま）

程経てお礼方々、位牌を拝見するため、再度千手寺を訪ね、位牌をカメラに収めてきた。これを契機にして関連した事柄を調べたところ、次のことがわかった。

1. 『美人塚』の文中に「秋岡伴春」は大垣の人とあるので、実在の人物かどうか大垣市立図書館へ尋ねたところ、次のような回答があった。「元和元年を手がかりに、初代氏鉄公時代の藩士を中心に調査したが、秋岡姓を見出すことは出来なかった」これは私の推量であるが、世は徳川の時代になり、不遇のまま、秋岡家は世に出ることもなく終わった。特に「伴春」の早逝は大きな打撃だったと思う。
2. 「石源」は福寿庵で得度―出家した―(興福寺住職談)
3. 福寿庵は善養寺と合併。今の篠原寺となった。
4. 千手寺は開創当時は真言宗だったのが、途中から臨濟宗妙心寺派になった。このため石源和尚は初代からだとして五代目になるが、妙心寺派としては二代目になる。
5. 興福寺本堂向かって左奥に「美人塚」があるので皆さんもお参りしてみてください。
6. 美人塚の裏側に次のような文字が刻まれている。

悲願の儀 美人塚

大塚文雄 作詞

興福寺第十八世住職(俊雄和尚尊父)

或は世の為人の為

命捨てたる人もあり

婦道の鑑と仰がるる

烈婦美談は

数あれど

所は遠州浜松在

篠原村の海蔵院

美人塚の物語

奏でて共に

讚美せん

元和九年の頃かとも

一人旅なる美丈夫は

大垣藩士の秋岡で

まだ部屋住

まいの人なれど

剣をとっては豪の者 修行の旅の道すがら

長里橋の西茶屋に

足の疲れを休めんと

團子片手に茶をすすり 憩い居りける時も時

年は二八か二九からぬ

美人小藤は野良婦り

養山禅師と行き違い 会釈をなせるその様の

實にも貴き見えければ

一目見初めし秋岡が

寛永五年戊辰四月朔日(一日)藤園妙花信女

祈念請願自掘自葬 烈婦小藤芳紀二十一

7. 篠原小学校沿いの道路(南北)の東側に屋号で「山文」というお宅がある。ここが小藤の生家である。当家仏壇には「藤園妙花信女」と書かれている。
8. 「悲願の儀」伝説美人塚、大塚文雄作歌「これは物語の詳細を七五調で歌ったもので、後世に伝えるに相応しい力作である。(後述)
9. 興福寺歴代住職の中に、次のお名前があった。「前任實相當山中興(第二世)養山西堂和尚禅師」

萬治元年七月五日(一六五八年)

只今會員募集中!!  
以下の連絡先までどうぞ

浜風会会報第1号  
 浜松市篠原公民館同好会浜風会  
 (篠原地区郷土の歴史を学ぶ会)  
 発行平成14年8月1日  
 連絡先: 篠原公民館気付  
 TEL053-448-7859